海外研修　様式第２号

2023 年　3 月　25 日

武蔵野美術大学　学長　殿

# 海外研修報告書

下記の通り、海外研修の報告をいたします。

記

| | | | |
|---|---|---|---|
| 氏名 | 木村桃子 | 所属 | 芸術文化学科研究室 |
| | | 職位 | 助教 |

| | |
|---|---|
| 研究課題 | キリスト教地域とイスラム教地域における空間造形の比較 |
| 研究先機関 | ウズベキスタン、フランスの建築物等 |
| 主な滞在地<br>（国・都市名） | ウズベキスタン(ヒヴァ/サマルカンド）、フランス(リヨン/パリ) |
| 渡航日程 | 2023 年　2 月　25 日　～　2023 年　3 月　13 日（　17 日間） |
| 研究目的・理由 | 西洋と東洋との造形感覚の比較を中心に見学鑑賞することを目的としている。また、これらは社会から要請された公的な構造物であるが、フランスのリヨンで鑑賞予定の「シュヴァルの理想宮」は個人の理想郷としての宮殿に位置付けられる。宗教や土地による建築・彫刻装飾の比較とさらには社会/個人の造形の在り方についても研究したい。 |
| 研究成果発表予定<br>（展覧会、著書、<br>論文発表等） | 6 月の都内での個展にて成果となる作品を発表する。 |

| | |
|---|---|
| 研究内容 | 木材を扱い美術作品を制作する上で、構造と表面装飾について着目していたため、建築装飾に焦点を当て、２カ国の渡航計画を立てた。<br>ウズベキスタンはシルクロードのほぼ中間地に位置しており、東洋と西洋の交易に関する史跡が遺されている国である。ウズベキスタンでは宗教都市ヒヴァ、ティムール帝国の首都サマルカンドを中心に見学し、歴史地区のブハラと首都タシケントも１日ずつ回ることができた。まず最初に滞在したヒヴァは世界遺産のイチャンカラを中心にし、聖都と呼ばれている。イチャンカラは周囲を城壁に囲まれている都市で、その壁の内側にはイスラム建築のアルク(城塞)、マドラサ(神学校)、モスク、霊廟など歴史的建造物が立ち並んでいる。宿泊したホテルはそのイチャンカラの近傍に位置しており、毎日、夜明け、昼、午後、夕方、夜の一定の時刻になると街全体で礼拝の呼びかけの放送が鳴り響き人々がモスクへ集まる。イスラム教の習慣は情報としては認知していたが、改めて現地で異宗教に触れその時間の流れや生活への関わり方を肌で感じた。この礼拝はメッカの方向を向いて祈るものであり、モスクや神学校にはメッカの方向を示す窪み(ミフラーブ)が壁面に造られている。ヒヴァやブハラ、サマルカンドで建築物の装飾の度合いや素材は異なるがこのミフラーブに関しては半分にされた玉ねぎのような形で統一されており、言語が分からない者でもひと目でその建物内でのメッカの方向がわかる。偶像崇拝を禁止されているイスラム教では具体的な図像を使わない代わりに幾何学形態や植物の紋様などあらゆる記号を駆使して物事を伝えようとしている。ここでは神への祈りが全ての中心であり、神学校において数学や天文学が学ばれていたのは正確なメッカの位置や礼拝の時刻を導き出すためというのも一つの理由だということだ。建物内では先述のミフラーブによりメッカの位置が確認できるが、砂漠など、指標となる建造物などがない場所でも天文学により方角と時刻を導き出すことができる。数学や天文学が発展するにはその必要性があったからだと、現地での生活に触れ改めて知識を身体でも理解できたように感じる。<br>そしてヒヴァで注目したもう一つの点は表面をびっしりと図像で覆った木柱の存在である。10 世紀に建てられたジュマモスクには 212 本の木造の柱が林立しており、どれも紋様のレリーフが施されている。全て異なる紋様が彫られ時代ごとで素材も違う。ジュマモスクの名前の通りモスクのため、金曜日になると今でも大勢の信者が礼拝に使う。中心に開かれた天井から陽が注ぎ、立ち並ぶ柱に浮かび上がる模様たちが静謐な空間を生んでいる。一方でイチャンカラの内のタシュハウリ宮殿や外壁の側に位置するナルラヴォイ宮殿にも同じような木柱が使われているが、ジュマモスクと比べると豪華さであったり、王や王妃の権威を装飾で表しているように見えた。これらで使われている図像により表されているというよりも柱そのものが醸し出す品性や豪勢さとしか言いようがないが、明らかに建物の用途を示す象徴性を柱が作り出している。<br>研修の後半に渡航したフランスでは、カトリック教会：パリのサン・シュルピス教会やリヨンのノートルダム大聖堂ではまさにウズベキスタンで観た建築とは在り方が正反対で、偶像崇拝を禁止されていないため内部装飾は大きく異なる。聖書の一シーンを取り上げた巨大な壁画あるいは聖人の一人一人を物語るような彫刻と絵画を配置し、装飾性と共に偶像を効果的に使い信仰心を高める機能として成り立っていた。一方で、ヴェルサイユ宮殿に飾られる肖像画や彫刻のほとんどは王政の権威を示すことを目的としており、ジュマモスクでは「信仰」／「権威」の違いをかなり抽象的に(ほとんど言語で表せないようなレベルで)表現されていたため、造形を利用した伝達方法の違いが大変興味深かった。<br>また、目的で記述したように、これらの公的な機能を持った建築ではなく、個人の理想郷として生み出されたリヨンのシュヴァルの理想宮はこうした公の文脈とは全く違うところに位置し、不特定多数ではなく、娘、あるいは自分自身の理想とする造形を追い求め結果的に多くの人から愛され、遺される作品となっていた。<br>今回は中央アジアウズベキスタンの建築群を視察後、フランスで教会を中心に見学、比較することで両国の宗教観と生活の密接な繋がりによる建築物等の造形感覚について思索することができた。位置的にも離れているこの２国を同時期に見学できたことで、それぞれの特性がより浮き彫りになる貴重な機会だった。 |

| | |
|---|---|
| 大学授業における<br>研究成果の還元 | 在任中も、本学科の鑑賞プログラム型授業や批評の授業には自作品を使い演習として展覧会づくりを学生と共に行なっていたが、今回の研修の研究成果発表でも同様に来場した学生と作品についての批評・鑑賞を行う場としたい。<br>特に今回は海外での研修を踏まえた作品制作となるので、退任後となるが、芸術文化と社会の繋ぎ手の育成を目的とした本学科の学生にも、２カ国での現地の文化体験を作品を通して還元しようと思う。 |

研究日程（全滞在期間）

| 出発日<br>（現地時間） | 出発地<br>（国・都市名） | 到着日<br>（現地時間） | 到着地<br>（国・都市名） | 研究内容等 | 滞在<br>日数 |
|---|---|---|---|---|---|
| 2/25<br>7:10 | 日本・成田 | | | 移動(イスタンブール/タシケント経由) | １日 |
| | | 2/26<br>8:15 | ウズベキスタン・ヒヴァ(ウルゲンチ) | イチャンカラ見学<br>(イスラムホジャ・ミナレット、ジュマモスク、) | 3 日間 |
| | | 2/27 | | 引き続きイチャンカラ(タシュハウリ宮殿、カルタミノル、クフナアルク)<br>ナルラヴォイ宮殿見学 | |
| 2/28<br>18:20 | ウズベキスタン・ウルゲンチ | | | チャドラホブリ宮殿、古代遺跡(トプラクカラ、キジルカラ、アヤズカラ）を見学<br><br>夕方の寝台列車にてサマルカンドへ移動 | |
| | | 3/1<br>3:25 | ウズベキスタン・サマルカンド | レギスタン広場、グーリーアミール廟、アクサライ廟、ビビハニム廟、ビビハニムモスク | 2 日間 |
| | | 3/2 | | シャーヒ・ズィンダ廟群、ウルグベク天文台 | |
| | | 3/3 | ウズベキスタン・ブハラ | サマルカンドから日帰りで移動。<br>サーマーニ廟、スィトライマヒホサ宮殿 | １日 |
| | | 3/4 | ウズベキスタン・タシケント | サマルカンドから移動。<br>国立美術館、ナヴォイ劇場、Madrasah of Abdulkasim Sheikh | １日 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 3/5<br>3:35 | ウズベキスタン・<br>タシケント | 3/5<br>12:28 | フランス・<br>リヨン | 移動(イスタンブール経由)<br>ノートルダム聖堂(リヨン)見学 | 2.5 日間 |
| | | 3/6 | | シュヴァルの理想宮<br>見学 | |
| | | 3/7 | フランス・<br>リヨン／パリ | リヨン旧市街探索<br>午後：パリへ移動 | 4.5 日間 |
| | | 3/8 | フランス・<br>パリ | ザッキン美術館、サンシュルピス教会、サンジェルマンデプレ教会、コンセルジュリ | |
| | | 3/9 | | ロダン美術館、ポンピドゥセンター | |
| | | 3/10 | | サントシャペル、オルセー美術館、ルーブル美術館 | |
| | | 3/11 | | ヴェルサイユ宮殿見学 | |
| 3/12<br>7:20 | フランス・<br>パリ | | | 移動(イスタンブール経由) | 1 日 |
| | | 3/13<br>7:50 | 日本・成田 | | 1 日 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 備考 | | | | | |

以上

※　欄が不足する場合は、適宜、行を挿入するなどして記入してください。別紙添付も可。
※　その他特記事項等がある場合は、備考欄に記入してください。